

第64回 軟式野球競技実施要項

1. 競技種目

軟式野球競技とする。

2. 競技規則

大会開催年度の公認野球規則および(公益財団)全日本軟式野球連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項による。

3. 出場資格

- (1) チームは加盟団体単位とし、ブロックごとの出場枠を下記のとおりにする。北海道・東北1、関東2、北信越2、東海2、近畿2、中国・四国1、九州1、開催地1、計 12 チーム以内になるものとする。
- (2) 出場枠2のブロックの場合、そのブロック予選大会の優勝・準優勝チームを基本とするが、当該ブロック内で、1チームで4名以内で他のチームから選手を補強することができる。
- (3) 出場枠が2のブロックで、出場チームが1のみとなった場合や、出場枠が1のブロックで出場チームがない場合、その空いた枠を他のブロックで今年度予選大会チーム参加数の最も多い順にまわすことにより、そのブロックの出場枠数が増減されることがある。
- (4) 出場枠2のブロックで、そのブロック予選大会の優勝・準優勝チーム、またどちらかが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できる。但し、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。
- (5) 出場枠が1のブロックで、加盟団体単独チームが出場できない場合、そのブロック内で、2つ以上の加盟団体で編成したチーム(連合チーム)で出場することができる。この場合、連合であることが明確なチーム名にすること。
- (6) 出場枠が1のブロックで、(5)でいう連合チームが編成できない場合、出場チームがないブロックから選手を加えることができる。

4. チームの編成

- (1) 1チームの編成は、監督を含む選手 20 名以内とする。
- (2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。
- (3) 監督の背番号は 30 番、主将の背番号は 10 番とする。

5. 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式による。
- (2) 試合は7回戦とし、正式試合となる回数を5回とする。但し、試合時間は2時間までとし、最低5回までとする。
- (3) 得点差によるコールドゲームを採用する。
- (4) 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差が生じた場合とする。
- (5) 時間制限によるコールドゲームは、無制限とする。
- (6) 7回を終わって同点は、次項の特別ルール(決勝戦も同様)による延長戦を1回実施する。

〔特別ルール〕

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁の走者は、順次前の打者(投手を

- 含む)として、1死満塁の状況により1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。
- (7) 特別ルールによる延長戦を実施しても勝敗が決しない場合は、抽選により勝敗を決定する。
 - (8) 決勝戦の場合、下記事項にて実施する。
 - ①得点差および時間制限によるコールドゲームを採用しない。
 - ②7回戦とし、7回を終わっても同点の場合は、9回まで延長戦を行う。
 - ③延長戦でも勝敗が決しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。(この場合、原則として勝敗が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。)
 - (9) 競技会において、雨天等の事情により大会日程等を縮小する必要がある場合は、大会役員・審判団・該当チーム監督等の協議により運営実施するものとする。
 - (10) 大会の使用球は、(公益財団)全日本軟式野球連盟公認 A 号ボールとし、ボールのメーカーについては主管団体において決定する。(本大会は〇〇ボールとする。)
 - (11) 前の試合がコールドゲームで早く終わった場合は繰り上げることもある。ただし、各チームの許可を得る。

6. 用具等

競技に使用する用具については、(公益財団)全日本軟式野球連盟競技規則に定められたものとする。なお、打者および走者は、ヘルメットを着用しなければならない。また、守備中の捕手は、プロテクター、ヘルメットおよびレガースを着用しなければならない。

7. 打順表(オーダー表)提出について

- (1) 第1試合の場合は、試合開始予定時間の 30 分前に主将が提出する。この場合、原本と照合の後、審判員立会いのもとに攻守の決定を行う。
- (2) 第2試合以降は、前の試合の4回終了時に主将が提出し攻守の決定を行う。
- (3) その日の試合が、W ヘッダー(前の試合終了後 30 分前で試合開始)となる場合の第2試合については、本部の指示により提出する。
- (4) 打順表の用紙(5部複写)は、監督・主将等合同会議で配布するので、事前に受領する。
- (5) 打順表の選手については、必ずフリガナをつけること。

8. 抗議について

試合中に、抗議が出来る者は、監督または主将・当該プレイヤーである。

9. 監督主将会議

- (1) 監督主将会議において、大会の組合せ抽選会を行う。
- (2) 組合せ抽選会における本抽選のくじ引き順を決定する予備抽選を引く順番は、同会場での出席受付順に行う。
- (3) 準決勝までは、そのブロックに属するチーム同士の対戦は行わない。
- (4) 3の出場資格によって推薦されたチームは、1回戦からそのチームの属するブロックのチームと対戦を行わない。

10. 表彰

- (1) 表彰式は、決勝戦終了後、閉会式にて行う。
- (2) 個人表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・**最優秀打者賞**・敢闘賞とする。**最優秀打者賞**は、ベスト3チームの全試合を選考基準対象とし、規定打席(各チームの試合数×2.5 打席以上)を設けて最高打率によるものとする。

11. 開会式、始球式について

開会式は実施しないが、状況により始球式を実施する場合があるので、チームは会場本部の指

示に従うこと。

12. 雨天の場合の連絡等について

- (1) 雨天でも試合を行う場合がある。また、午前中は試合を見合わせて、午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意すること。なお、当日試合不可能な場合は、大会本部より各チームへ連絡する。
- (2) 雨天でも試合を行う場合、落雷がないとも限らないので、木製バットも用意しておくこと。

13. その他

- (1) 試合中ベンチに入ることのできる者は、指定された大会係員および登録された監督・選手 20名とチーム代表者1名・スコアラー1名・マネージャー1名とする。
- (2) 試合開始予定時刻の 40 分前までには会場に到着し、会場本部席に到着の報告を行うこと。なお、集合時刻に遅れたチームは、原則として棄権とみなす。試合開始予定時刻より早くゲームを行える場合も考えられるので、十分余裕を持って行動すること。
- (3) ベンチは、組合せ番号の若いチームを1塁側とする。
- (4) ゲーム前の公式練習(シートノック・フィールディング)は5分間とする。但し、天候・時間の状況等により中止または短縮する場合がある。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用すること。
- (5) 実行委員会は、大会参加申込締切直後の参加チームが 12 チームに満たない場合、すぐ一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局にその旨を伝えること。

14. 本要項改正

- ・ 一部改正 2004 年2月 22 日 第6回全国委員会
- ・ 一部改正 2006 年2月 19 日 第8回全国委員会
- ・ 一部改正 2007 年3月9日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2009 年2月8日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2010 年2月7日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2011 年2月6日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2012 年2月5日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2015 年2月8日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2016 年2月6日 第3回スポーツ委員会
- ・ 一部改正 2018 年2月9日 第3回スポーツ委員会

【申合せ事項】

5. 競技方法

- (10) 大会の使用球は、(公益財団)全日本軟式野球連盟公認 A 号ボールとし、ボールのメーカーについては主管団体において決定する。(今大会においては M 号ボールとする)